

# 平成 31 年度 心悅認定こども園 自己評価

## 1. 本園の保育教育目標

- ・「子ども一人ひとりの人格と向き合う」ことを基本とし、子どもの自発的で主体的な遊びと学びの活動を通して創造力豊かでたくましく、思いやりのある子どもに育てたい。
- ・愛情深くよく配慮された環境の下での豊かな遊びと学びの体験を通して、心身の調和のとれた発達の基礎を培う。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・育児担当制や流れる日課を通し、子ども一人一人に寄り添い、子どもの幸福感・自律を目指す。
- ・プロジェクト保育や遊びについては、楽しみながら考える力や語彙力、コミュニケーション能力を育んでいけるように取り組む。
- ・園外・園内研修を計画的に行いながら、職員も保育教諭として、その専門性をより高めていけるように、研修等行っていく
- ・一斉メール送信システムを速やかに整備し、緊急時、災害時に備える体制を作る

評価      A:十分に達成されている                      B:ほぼ達成されている  
             C:達成されているとは言えないが、努力している      D:達成されていない

評価項目	評価	取り組み・課題
保育教育方針 ・内容	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園教育保育要領の5領域、乳児期の3つの視点、幼児期までに育てほしい10の姿、幼児期に保育・教育において育みたい資質・能力について、本園でも勉強会を行ったり、これらを含めた全体的な計画を作成し、保育を行っている。ピラミードの8つの発達領域と合わせ、子どもが将来をよりよく生きていく力を身につけていくための土台としての保育・教育を築いていきたい。</li> <li>・プロジェクト型保育として月々の体験的テーマ活動も子ども達の気付きや豊かな発想が多く、保育者も一緒に楽しみながら行うことができた。</li> <li>・育児担当制もだいが定着し、0歳の子どもも担当の保育者を安心基地に探索を楽しみ、世界を広げている。この信頼関係を土台(安心基地)に、あそびや生活習慣の自立や友だちとの関わりを深められるようにしている。</li> <li>・発達障害に有無に関わらず、配慮の必要な園児に対する支援(チューター等)などを勉強しながら、日々の子ども達の困り感に対応できるようにしていきたい。</li> </ul>

<p>保育教育環境</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスルームの8つの発達領域を組み込んだ遊びのコーナーについて、子どもの発達と子どもの幸福感を大切に日々保育環境の見直しをおこなった。</li> <li>・装飾や発見コーナー、子ども達の作品などを通し、子どもや保護者が季節(時間の経過)を感じることができているようだ。</li> <li>・自己選択・自己決定ができるように、日課やあそびなど視覚的に環境を整えている。子ども達も自主的に行動し、よく遊び、子ども同士での気づきあい・学び合いも多いように感じている。</li> <li>・掃除や消毒等も低年齢ほど重点的に行っている。消毒保管庫を活用しながら、細かなところまで行き届くようにしていきたい。</li> </ul>
<p>職員間の連携</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの食事・着脱などの援助の仕方など、だれがについても同じ方法で行えるように順序・方法など共通理解できるようにしている。また、十分でないところは随時見直していきたい。</li> <li>・月に全体、未満児、以上児の職員会議を1回ずつ行い、お互いの保育について話し合ったり、テーマを設け勉強会を行ったり、共通理解を持つようにしている。今後もそれぞれの職員が自分の経験や立場を意識して連携していけるようにしていきたい。</li> <li>・クラスの垣根を超えた保育者の連携のもと、保育準備をできるだけ保育時間内に行える体制を整えたり、保育者の働き方の見直しも行っている。</li> </ul>
<p>安全管理</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、大きな怪我ではないが4件の怪我があった。その他ヒヤリハットも含め全員で報告し合い、注意喚起や原因・対策を考えるようにしてきた。今後も事故防止につとめていきたい。</li> <li>・毎月、園内外の設備の点検を行っている。園庭遊具についても定期点検を受け必要に応じ交換、修理、廃棄するなど対処を行った。また、学期ごとにクラスで環境・保育における安全チェックも行い環境整備・指導の見直しを行っている。</li> <li>・学校環境安全検査により、学校薬剤師による騒音・水質・空気・ダニアレルゲン検査を行い、どれも良好であった。</li> <li>・「滋賀県大津市の保育園の散歩中の事故」を受け、園でも散歩についての見直しを行い、散歩安全マップを作り、危険箇所の確認や安全な散歩の仕方について(コース、職員人数、配置、対応等)を確認をしていった。安全に配慮しながら、子ども達にとって地域に親しんだり、自然や色々な出会いのある散歩の機会も大切にしていきたい。</li> <li>・3学期より新型コロナウイルス感染症が世界や日本で流行し始めたが、本園でもその都度対策会議を行ったり、保護者に情報発信しながら、マスク着用・手洗い・手指消毒・室内環境の消毒など感染対策を行った。</li> </ul>

<p>保護者との 連携</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつでも入れる・相談できる雰囲気作りを心がけ、登降園時の保護者とのコミュニケーションも豊富に行われていると感じる。保護者や保育者の勤務形態等によっては、なかなか担任がコミュニケーションが取れないケースもあるが、職員全体で子ども見ているという姿勢での対応、または連携を大切にしていきたい。</li> <li>・今年度より「一斉メール送信システム」を導入し、緊急時の保護者への連絡手段が整った。日常的にも行事や愛情弁当の日などのお知らせにも活用できた。</li> </ul>
<p>研修の充実</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、昼食後の時間を利用して以上児・未満児ごとに「こどもの人権」「養護と教育」「育児担当制」「衛生管理」「あそびと生活」「ヒヤリハット」などのテーマの園内研修を行い日々の保育の振り返り、勉強を行っている。できるだけ多くの職員が参加できるように調整しているところである。</li> <li>・新型コロナ感染症流行による緊急事態宣言等の影響も受け、なかなか園外研修の機会もなくなっていく中、新しくオンラインという形での研修が始まった。オンラインの良さを生かし、今まで1回に1~2名程度しか参加できなかった研修を多くの職員が受講できるようになった。保育講座の継続受講を通し、より「子どもの自尊と自律を育てる保育」「0歳からの教育」など学びを深めていけると期待している。また学びを日々の保育に生かしていきたい</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の未就園の親子にも園庭開放の日を設け、園で過ごしたり、保育体験できる機会を提供している。プレイルームは家庭ではなかなか遊べないような豊かな木製玩具が豊富であることも特色であり喜ばれている。保護者の不安を聞いたり育児相談など受けることもあり、地域の家庭にいる保護者の声を聞いたり・感じたりする機会になっている。園の情報を発信したり子どもの育ち・子育てについて話をしながら寄り添える場にしていきたい。</li> <li>・保護者へ子どもの育ちをつなぐという思いで多くの職員が子どもの姿を伝えようと積極的に保護者とコミュニケーションをとっている。ますます家庭の状況も多様になる中、保護者支援についても学びを深めていきたい。</li> </ul>
<p>小学校への接続</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本園の小学校へのアプローチカリキュラムの一環として、3月のプロジェクトテーマ「期待」の中で、年長さんは今までの成長に気づいたり「自信」を感じられるような活動、小学校就学に向けて期待が持てるような活動を意識的に行っている。小学校就学への不安もやわらぐようであった。</li> <li>・小学校との連携についてはこども園職員による小学校の授業参観・意見交換や就学前の連絡会はあるものの、以前まで行われていた小学校職員による保育参観はなくなってしまった。さらに、新型コロナ感染症もあり、連携の難しさを感じる。</li> <li>・年長クラスのクラスだよりやテーマの保育ドキュメンテーションを毎月小学校に届ける取り組みを続けている。今後、就学前の「アプローチカリキュラム」を作成し、こども園から小学校へ育ち・学びの連続性を大切にしていきたい。</li> </ul>
<p>財務管理</p>	<p>A</p>	<p>公認会計士による監査により、適正に運営されていると認められた。</p>

